


審査公報掲載文原稿用紙

受付年月日 年 月 日



最高裁判所判事
はやし みち
はる
昭和三年八月二日生

東京生まれ、四所で学ぶ。東京教育大学（現・筑波大学）附属駒場中学校、同高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。
昭和五年四月 司法修習生
五七年四月 判事補任官（以後、東京地裁、最高裁判事務局、厚生省（現・厚生労働省）（出向）、札幌地裁に勤務）
平成四年四月 判事任官（以後、東京地裁、最高裁判事務局判事、同僚長、東京高裁、東京高裁判事（部長）、明治法律事務所教育、同事務所長を務める。）
二年八月 最高裁判所司法官補任官
三年七月 同僚判事
五年三月 同僚判事
六年九月 東京高裁判事（部長）
同一年一月 最高裁判所司法官
三〇年一月 東京高裁判事
令和元年九月 最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判
一 令和二年三月二四日 第三小法廷決定
文書提出命令の中立人の死体について司法警察員から鑑定依頼を受けた者が当該死体の解部のために必要と認め、裁判官の許可を待たずに当該死体の解部の写真に添付された地方公共団体が所持するものは、民法第二二〇条三号所定のいわゆる法律関係文書に該当する（全員一致、裁判官）
二 令和二年一月一八日 大法廷判決
令和元年七月二日施行の公職選挙法第四十條、同法第三の参議院（選挙区選出）議員の議員定数配分規定の下の選挙区間における投票価値の不均衡は、選挙の問題が生ずる程度の著しい不平等状態に達したといふことは、多数意見
三 令和二年一月二五日 大法廷判決
普通地方公共団体の議員の議員に対する出席停止の懲罰の可否は、司法警察の対象となる（全員一致）
四 令和二年二月二二日 第三小法廷決定
（いわゆる拘束事件についての）再審請求を撤回した原決定に不当の違法がある（多数意見、裁判官）
五 令和三年七月三〇日 第三小法廷判決
違法取組施設として監視能力を否定した第一審の訴訟手続に法令違反があるとした原判決に、法令の解釈適用を誤った違法がある（全員一致、裁判官）

裁判官としての心構え
事件に多角的な視点からアプローチし、その背景事情や経緯などから、裁判で取り上げられている紛争や事件の裏面や真相を十分把握し、それに適合する解決や判断をするように、この二年間の勤務において努力してきました。現在、新型コロナウィルス感染症の影響により社会の在りようが従前から大きく変わっており、今後予想されることも多くあるなか、より柔軟な姿勢で事件に向き合っていきたいと考えています。また、最高裁は憲法裁判が基本ですが、法廷で弁論の期日が同かれる事件では、当事者（代理人）による情実な弁論がされるよう工夫をしています。いまだ執行機関の段階ではありますが、当事者はもちろん、傍聴されている人にとっても分かりやすい審理となるよう引き続きその工夫努力を続けていきたいと考えています。

裁判官 林 道晴

備考

- 1 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。
- 2 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。